

倫理意識の構造分析

—日本人の倫理意識を巡る考察と調査票の修正作業—

海野 裕

はじめに

筆者は 2005 年から日本人の倫理観を定量的に調査してきた。その背景には倫理観という曖昧な「概念」を数量化することで、多くの人々がアクセス可能で正確な「データ」にしたいという考えがある。倫理観が曖昧なままでは、例えば特定の政治勢力が日本人の倫理観の欠如を問題とし、より強権的な教育制度や法制度の構築を目指すなど、恣意的な解釈が成り立ってしまう。それは極端な例だとしても曖昧な概念のままでは倫理観を通じた研究の進捗も、あるいは多くの研究者が共有できる知見の開発もなし得ない。道徳学や教育学が学問としてやや魅力に欠けるように映るのも、数量化の努力が足りなかったと言えないだろうか。そんな問題意識から日本人の倫理観の調査を企画し、2005 年に第 1 回の実査を行った。途中、別テーマでの各論調査を挟み、2010 年に第 2 回の実査を行い、その後 2020 年まで毎年定点的に倫理観の調査を継続してきている。数量化作業は蓄積されてこそ価値を持つ。その点で 2005 年からの 15 年、定点観測が始まってから 11 年のデータを蓄積してきた倫理観調査は多くの知見を私たちの社会に与えてくれるし、今後も与えてくれるものと期待している。

人々の倫理観を測定する調査の設計は容易ではない。いわゆるアンケート調査においては何等かの設問によって対象者を刺激し、その反応を分析することになる。つまり倫理観を把握し分析するには、適切な刺激によって「倫理観が反映された反応」を取得する必要がある。この調査では一般的な「倫理」「道徳」として流通している概念、あるいは従来から「倫理」「道徳」とされてきた概念を収集して似た者同士をグルーピングし、複数の「倫理コンセプト」を策定した。この「倫理コンセプト」を提示して対象者を刺激し、個々の倫理観が反映された反応を取得するのである。このような調査手法は「コンセプトチェック」と呼ばれる。対象者刺激に使った「倫理コンセプト」は 2005 年の実査開始当初 25 を数えたのでこれを「倫理 25」と呼ぶ。この調査は「倫理 25」に対する日本人の共感等を取得することを目的として実施されている。

本稿が書かれたのは、2020 年に至りこの「倫理 25」では人々の倫理観を把握するための刺激として不十分になってきたからである。「倫理 25」は宗教的な道徳も含め 20 世紀に機能してきた個々人の内面や行動を律するタイプの倫理コンセプトが中心であった。しかしここ数年で加わった新たな要素によって社会に大きな変化が生じ、結果として人々の倫理観にも変化が生じている。新たな要素とはスマートフォン(Smart Phone)の急速な普及と SNS (Social Network Service)の台頭である。アップルコンピュータが携帯電話を再発明するとして 아이폰(iPhone)を発売したのは 2007 年 6 月、代表的な SNS のひとつであるフェイスブック(Facebook)は 2004 年に誕生しているが、日本での普及は 2010 年頃からとされている。SNS が日本で普及する経緯には、2011 年 3 月の東日本大震災が影響を与えている。交通網が寸断されテレビが失われた環境でも、被災者の多くはスマートフォンで SNS から情報を入手することができた。IT (Information Technology)は人間同士の関係性、さらにはそれを拡大した社会の性質すら変え始めたのである。また SNS の台頭は世界を急速に狭くし、物理的な距離を問題にしない新たなグローバル社会をも創出している。人間の関係性あるいは社会と個人の関係性が変わり、また地球規模での倫理的な課題が共有されれば、そこにおけるルールやマナーにも変化が生じるのは自明である。

2019 年から 2020 年にかけて、筆者は他の研究者とともに「倫理 25」の修正に着手した。その基本的

な問題意識は IT 化とグローバル化が変えた新しい社会に応じた倫理観の範囲の拡張である。そのために以下のようなステップを踏んで修正作業を行った。

- (1) 従来の「倫理 25」による調査結果の知見のまとめ
- (2) 「倫理 25」の項目間の相関性の精査
- (3) 「倫理 25」の因子分析による倫理の軸の抽出と分析
- (4) 思想史に照らして現状に不足している視点を補完
- (5) 「倫理 25」を 25 以上に拡張
- (6) 最新の実査に反映

今後の章立ても概ね上記のステップを踏みながら進めていく。またここまで個々に内在する倫理や道徳を「倫理観」と呼んできたが、これ以降は一般的な意味での「倫理観」ではなく「倫理コンセプト」の刺激に対する反応を意味することから「倫理意識」と表現する。